



# 波 濤

[http://www.geocities.jp/hatoh\\_net/](http://www.geocities.jp/hatoh_net/)

## 第 4 5 号

発行 放送大学神奈川同窓会  
編集委員会

責任者 木村 勝紀

発行日 平成25年7月1日

会員数 595名(平成25年7月1日現在)

### 神奈川学習センターの 永続発展を願って



神奈川同窓会  
会長 木村 勝紀

神奈川学習センター所長  
と事務長の同時交替という  
節目に当り、平成25年3月10

日(日)同窓会および在学生有志の主催で、新旧センター所長・事務長歓送迎会を企画したところ、80名程が自主的に集い盛大に執り行うことができました。同窓生、在学生、教職員の連携、協力を以って神奈川学習センターの発展に寄与するという良き風土を途切れなく維持継続するためのセレモニーでした。濱田嘉昭前センター所長、宮崎安博前事務長の多大なる功績を讃えつつ、池田龍彦新センター所長、藤田廣司新事務長を新たにお迎えして新生神奈川学習センターの門出を祝うにふさわしい行事となりました。

放送大学は、昭和58年(1983)4月の設置以来30年を経過し、今年は創立30周年行事が予定されています。神奈川学習センターもまた、全国に先駆けて昭和60年(1985)4月、2,491名の新入生と共に授業開始以来28年を経過して、今や5,013名(平成25年3月末現在)の在学生を擁する全国有数の学習センターになりました。その間、昭和63年(1988)第1期76名の卒業生を嚆矢として、平成24年度・第2学期末までに6,893名の卒業生・修了生を輩出してきました。

神奈川同窓会は、平成元年(1989)第1期生卒業の翌年、平成2年(1990)10月神奈川学習センター支部設立総会の開催を経て、初代会長・別所敏明氏のもとに

119名で産声を上げました。以来今日まで連綿として同窓会活動を続けてまいりました。今日なお、実際に年会費を納める600名前後の会員数を抱える同窓会として着実な歩みを続けています。思えば神奈川同窓会は、放送大学創立、神奈川学習センター開設と共に踵を接して歩んできたと言えるでしょう。時あたかも平成25年度の神奈川同窓会は、「Kanagawa Way」を標榜して活動するという目標を掲げました。「Kanagawa Way」とは、第24回総会議案書に述べたことですが、こんにちまでの数々のユニークな取り組みに自信と誇りを持ち、一層磨きをかけ放送大学における同窓会のあり方について全国同窓会の範となる道を拓くということです。神奈川同窓会は、放送大学卒業・修了という「誇り」と愛校心という「母校意識」と社会的存在としての「社会貢献」の三つの理念を中心に活動します。そして小さな誇りと大きな志をもって、会員の皆さまと共に神奈川学習センターを通して放送大学の発展に寄与したいと思います。



### It's a small world

放送大学神奈川学習センター  
センター長 池田 龍彦

本年4月に神奈川学習センター所長に着任しました。29年余りの公務員生活の後、2000年7月から本年3月末までの12年9カ月横浜国立大学で教員生活を送りました。現在の自宅には1997年以来住んでいますが、それまで転勤により14回の引っ越しを経験しました。住んだところは、東京(5か所)、カリフォルニア、新潟、四日市、マニラ、横浜、北九州、那覇の8地方です。引っ越し

には大きな労力が必要ですし、当初は「仲間との別れ」や「新しい土地への不安」等が交錯して精神的にも大きな負担でした。特に、小中学校の子供にとっては、その負担が大きかったのを感じたものでした。

引っ越しを繰り返すうちに次第に分かってきたのは、「仲間との地理的な別れ」は全く「別れ」ではなく、むしろ人間関係の蓄積の過程であり、より広い交友関係の構築につながるということでした。手紙、電話やメールでの通信は可能でしたし、いろいろな局面で再会を果たしたり、今となっては、当時を懐かしんで仲間が集まったりします。そして、別の機会に知り合った人同士が、実は偶然にも旧知の仲間だったりして、見えない糸に導かれながらの驚きを感じて



2013/4/7 入学者の集いで

います。この広い世界が如何に「スモールワールド」であるかを実感してきました。

特に、ビールを飲みながらの何気ない会話からその発見があったりして、楽しい場がより楽しく発展する喜びは格別です。神奈川学習

センターに着任してまず感じたのは、活発な同窓会活動やサークル活動、そして学習センターを支援するK-サポート活動が、渾然一体としてうまく機能していることでした。放送大学は、年齢、職業、居住地など多様な学生が、それぞれの目的を持って学習センターに所属し、極めて多様性に富んでいる特徴がありますが、自分を高める努力を積み重ねていることは共通していると思います。その中であって、同じ学習センターに所属している、或いは、所属した人々が共通の意識を持って活動することは、意義深いものと思います。その活動の中で、是非「It's a small world.」の感覚を楽しんでいただきたいと思います。それは、過去からつながったsmall worldもあるでしょうし、将来どこかで再会したり友達がつながったりするsmall worldもあるかと思えます。

そして、これらはひとえに、私たちの前向きに進む姿勢によってもたらされるものと思います。神奈川学習センターの場を共有する学生のみなさんの交流を促進することは意義深いものがあり、同窓会活動が大きな役割を果たしていることを確信しています。放送大学神奈川同窓会のますますのご発展をお祈りします。今後とも、多くの仲間と一緒に前進して行きましょう。

## 第24回神奈川同窓会総会開催

神奈川同窓会 副会長 吉原 司郎

去る5月25日に大学講義室において題記総会が開催されました。同日現在の公会員総数は595名、当日の出席者39名、委任者会長若しくは同日決議に賛成する方274名を確認して会則にしたがい、議事進行いたしました。会議は特段の反対もなく恙無く終了いたしました。あえて申し添えるならば、もう少し活発な意見の応酬があればと思われるほどでありました。会議終了後、恒例の講演会を開催し、同窓会連合会会長を務められた現埼玉同窓会会長の森岡加世氏をお招きし『放送大学で学んで』と題し多数のご出席を得て大変貴重な講演を頂きました。放送大学入学の動機、ご卒業に至る勉強過程、同窓会連合会の発足当時のご苦労話など当時思い出を語っていただきました。

今後の人生に大変有意義な講演になりました。総会内容や講演については、録画しておりますので事務局に申し込みいただければ視聴できます。なお、総会には第3代会長稲葉恒夫氏、第7代会長五十嵐一成氏も出席頂き同窓会の発展を見守って頂きました。お陰様



木村会長の挨拶  
講演後の記念撮影



で会員諸氏のご理解とご協力により無事総会を終えることができましたことをご報告するとともに御礼申し上げます。  
今後、一層発展を期し、木村現会長の掲げる『日本一の同窓会をめざし』同窓会活動の充実を図ってまいります。そのため、会誌への寄稿や見学会等のイベントへの積極的参加により神奈川同窓会を盛り立てていきたいものです。よろしくご理解を頂きご協力お願いいたします。  
なお、会議終了後多数の方に懇親会に参加して頂き友情を深めることができました。末筆ながら会員諸氏のご健康と益々のご活躍を祈念し総会開催の報告といたします。

## 新旧センター長・事務長の歓送迎会

木下 義則

平成25年3月10日(日)17時から「パセラリゾーツ関内」において、放送大学神奈川学習センターを3月で退任される、濱田センター長ならびに宮崎事務長の送別会と、4月から就任される池田新センター長ならびに藤田新事務長の歓迎会を開催しました。本会の開催にあたっては、K-サポート、サークル協議会と神奈川同窓会の3団体合同による、実行委員長に神奈川同窓会木村勝紀会長とする実行委員会を組織し開催に向けた準備を進めてまいりました。

当日は約80名の参加者を集め盛大に開催する運びとなりました。開会にあたり主催者を代表し木村実行委員長から歓送迎会の開催趣旨説明を含めたご挨拶があり、その後濱田センター長から退任にあたってのご挨拶を承り、その後新センター長・新事務長をご紹介いただき、新センター長、新事務長のご挨拶が続き乾杯となりました。

宮崎事務長(右)  
濱田センター長(左)



池田新センター長(右)  
藤田新事務長(左)



パセラリゾーツ関内の舞台上で記念撮影

## 森岡加代氏の公開講演会 放送大学に学んで

金田 保男

平成25年5月25日(日)付が2と5の並ぶ記念日)神奈川同窓会第24回通常総会後、現埼玉同窓会会長 森岡加代氏による講演をお願いした。氏は26年間「栄養学」関係の調査研究に携わり、遠回りの感はあるというものの助けてくれる人もまた大勢おり現在複数大学の非常勤講師を歴任。

「毎日続ける、やればできるかも知れない」との力強い言葉があった。一時仕事を辞め「放送大学」に学び、自分と向き合えた事が嬉しい、

特に「質問」が楽しいという。埼玉同窓会の会長となつて「卒業生が立派でないと滅びる」と、「前石学長」の言葉があり同窓会連合会の発展に尽力。「みんなで手をつなごう、夢を広げることが可能であると思えるようになりました。」と私達を鼓舞する講演に一同感動しました。



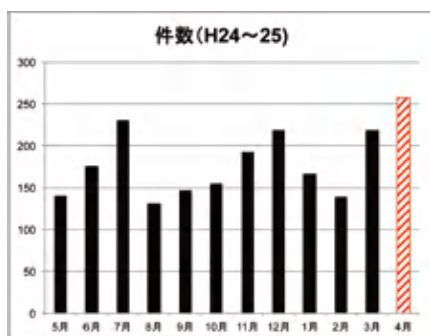
講演中の森岡加代氏

## 同窓会ホームページへのアクセス状況

[http://www.geocities.jp/hatoh\\_net/](http://www.geocities.jp/hatoh_net/)  
(hとnの間はアンダーバーです)

寺村 紀美夫

同窓会ホームページ(以下HPという)をご覧下さりありがとうございます。おかげさまでHPのアクセス件数(月毎の)はグラフのように増加傾向を示しています。特に2013年4月の件数は257件となり過去最高となりました。今後もHPへアクセスして頂きご協力をお願い致します。



乾杯のご発声は渡邊慎介元センター長で、会場内声高らかに唱和し懇親がスタートしました。しばらく懇談した後は、K-サポート各チームのリーダーならびに神奈川サークル協議会所属の各サークル代表から濱田センター長と宮崎事務長を送る言葉をそれぞれに万感の思いを込めてスピーチしました。引き続き坂井先生、原田先生からも同様にスピーチをいただき、原田先生からは万歳三唱のパフォーマンスがあり会場が大変盛り上がりしました。参加者全員から感謝の気持ちを込めた花束贈呈は、濱田センター長には神奈川同窓会浅井さんから、宮崎事務長にはK-サポート機関紙編集チームの遠田さんからそれぞれ渡されました。その後、退任された後は放

送大学の学生としてデビューされることとなった宮崎事務長からの謝辞を拝聴しました。最後に、K-サポート学習相談チームの安田代表から閉会の挨拶をいただき、日本一の学習センターを目指し、K-サポートの創設や学生団体との交流を通じて、我々学生・同窓生とともに学習環境の整備、神奈川同窓会や神奈川サークル協議会に参集する各サークルに対するご支援をいただいた、濱田センター長ならびに宮崎事務長に感謝の気持ちを込め、また、池田新センター長と藤田新事務長には引き続きのご支援を賜り、今後協調し益々神奈川学習センターが繁栄する決意を込めて開催して、盛会であった新旧センター長・事務長の歓送迎会もお開きとなりました。

### 「欲窮千里目、更上一層楼」 「更に上る一層の楼」の想いを抱いて

平成24年度卒業  
澤村 雅嗣

65歳で退職した時、私にとって残された時間を如何に過ごすべきかは大きな課題でした。仕事人間でしたので、退職後の準備など全くしておりませんでした。ある友人曰く、「60歳代はゴールデンエイジ、大事にしろよ」と。確かに父母は既に見送っていたし、子供は独立している。仕事から解放され、健康でもある。人生で一番自由な時期であり、時間はあるし、普通の生活さえしていれば、お金に困ることもない。思案した結論はこれまで数十年間、限られた世界で仕事をしてきたので、残された時間はもっと視野を拡げて別の世界を見てみようというものでした。



岡部学長(右)と談笑する澤村さん

放送大学なら時間の制約もあまりなさそうだし、修業年限も長いので、退職した2002年の秋に入学しました。「人間の探究」を専攻しました。なるべく長期

間在学できるように、修業年限10年の高校資格で入りました。まさに10年かけて124単位を取得し、今回卒業に至りました。

その間、3年間中国大連の遼寧師範大学に留学しました。留学期間中も科目数を絞り、放送大学も続けておりました。

期末試験は留学先が冬休みと夏休みに当たりましたので、一時帰国して試験を受けました。

世界各国から来た若い留学生と机を並べて共に学んだ3年間は、楽しく有意義な時間でした。同時に、異文化と日本を鋭く意識する機会ともなり、貴重な経験をしました。

留学中持病の緑内障が悪化し、予定を切り上げて帰国しました。帰国後2度手術を受けましたが、病状は徐々に進行し、印刷教材を読むのに拡大鏡が必要になりました。しかし、拡大鏡を使用すると、内容が良く呑み込めない。そこで拡大鏡を使いながら、「三到」を実践することにしました。「三到」とは朱子の言葉で「読書は心と眼と口を十分にはたらかせて、反覆誦読せよ」というものです。時間がかかりますが、拡大鏡を使いながらゆっくりと声を出して反復咀嚼するように心掛けました。この方法は有効で、以後成績は向上しました。

ところが数年前期末試験の時拡大鏡を使用しても試験問題の判読が難しくなり、また、マークシートがどこからどこまで囲いなのかが判明しづらくなりました。その時は放送大学を辞めざるを得ないなと思いましたが、事務局に相談したところ、弱視者のための特別措置があることを紹介され、それを受けることにしました。

特別措置とは試験問題とマークシートを拡大し、個室で照明スタンドを用意していただき、試験官立会いの下で試験を受ける制度です。今回卒業できたのはこの措置のお蔭です。学校当局、特に実際に支援して下さった神奈川学習センターの事務局の方々には心より感謝しております。

3月23日NHKホールでの学位記授与式での事、学部総代で謝辞を述べられた秋田学習センター所属の白旗さんの言葉に大変感銘を受けました。謝辞を受けられている岡部学長の眼にも涙が浮かんでいたと後で学友から聞きました。場内が暫し感動に包まれていると感じました。

白旗さんは私の息子と同世代ですが、私はその真摯な不撓不屈の精神に心から敬意を払い、自分もその精神に学びたいと思いました。

卒業は学びの一里塚、「産業と社会」に継続入学しました。残り時間は限られておりますが、それ故にこそ「千里の目を窮めんと欲し、更に上る一層の楼」の想いを抱いて、これからも牛歩のごとく、一步一步、歩み続けて行きたいと念じております。

## 卒業に寄せて“心に響く出会い”

平成24年度卒業  
村田 カズ子

放送大学との初めての出会いは2002年の秋、障害児教育3教科の選科生での入学でした。

私の勤める幼稚園に入園した孫娘は発達障害があり、園長から「Kちゃんを普通の子にしたいのでしょ!」と言われ愕然としたあの瞬間。保育のプロである者でさえ、曖昧な知識で障害を誤って認識していることが現状でした。今でも、それは変わらないかもしれませんが、“自閉症”を文字通り“自らの殻に閉じこもってしまう”と思込んでいる人の多いこと。これでは孫の障害と孫の母親である娘を守ってあげられるのか・・・、もどかしさ、悲しさからの奮起でした。

幼稚園は夏休み、娘が九州から里帰りしていた矢先、妊娠八か月の予期せぬアクシデント、救急車で運ばれた病院が、こども医療周産期センター(南区)であったこと、そして、早期によこはま発達クリニック(佐々木正美先生、内山登紀夫先生)と出会うことができたことがその後のケアの大きな支えになったのです。私も幼稚園勤務の傍ら、よこはま発達クリニックの夜学講座に通い障害についても学んでいました。勤務が保育園に移り、施設長の時、パンフレットで初めて知った放送大学の存在。充実した学習内容、本当に驚きでした。

私の放送大学入学は、生涯教育→障害児教育→養護学校の教員資格を取得することが入学の第一の目的になったのです。そして第二の目的はよこはま発達クリニックのスタッフのように“臨床心理士”の高いハードルへ勉強を進めることでした。

幸いに、半年で第一の目的は達成でき、何よりも“知る楽しみ”“学びへの願望”がふつふつと湧き上がった選科生の半年でした。そして吸い込まれるように全科生に入学した私は2009年に『教育と発達』を卒業し、この2013年3月に『人間と文化』を卒業しました。4月には3度目の入学になり、学生生活も10年を超えることになりました。

孫娘も今春4月、高校3年生になり、彼女なりに成長、子どもは誰もが伸びる力を持っていると実感でき、孫娘の誕生は家族にやさしさの心と眼差しを育ててくれました。

放送大学入学の傍ら、私は添乗員の資格を取得し、ツアーコンダクターを第2の人生の糧にしてきました。日本全国の観光案内です。それには、放送大学での学びはとても大きいものでした。

京都の世界遺産、東京の大名屋敷庭園巡りに『和歌の

心と情景』島内裕子先生の講義と乙女のような顔が浮かび『日本美術史』も知識を豊かに。『舞台芸術への招待』リオペラ座の屋根の上から熱く語る青山昌文先生の情熱は学問の楽しさを共感、未知のヴェルサイユ宮殿レイ14世の空間へと誘ってくれます。今までのすべての授業が私の宝石箱の中身になりました。

3月23日の学位記授与式で謝辞を述べた秋田学習センターの白旗寛之氏の『学び続けていれば辿り着く』言葉に改めて勇気を貰い、2009年2月に前所長の濱田教授と訪れた韓国釜山地域大学キャンパス『꿈과 열정이 있고 공부하는 사람은 언제나 청춘이다』“夢と情熱があり勉強する人間はいつも青春である”碑文は老いを実感する私へのエールであり、学びの先の夢を信じさせてくれるのです。ただし、第二の目的はいつか果たせるのでしょうか？

ホテルニューオータニでの祝賀会で初対面の千葉センターの方と同席し、お互いを祝福し合い気軽に言葉を交わし、同伴のご主人はせつせと私の分まで美味しい料理をお皿に乗せ運んで下さり、只々、お相伴させて頂きました。

人との出会いがいかにかに人生を豊かにしてくれるものなのか放送大学で、神奈川学習センターでの日常の交流で、今までも強く心に刻まれた真実です。

大勢の方との出会いを期待して、同窓会のお仲間入りをさせて頂き、感謝申し上げます。

## 50年後の卒業

平成24年度卒業  
服部 高重

私は、昭和38年(1963)3月、北海道大学工学部建築工学科を卒業した。今回、平成25年(2013)3月、放送大学(以下本学)教養学部人間と文化コースを卒業した。

丁度、50年後の二回目の卒業である。

先ず、本学と私の関係を記す。私の学生番号は881-150153-7で、881は1988年(昭和63年)1学期入学を意味する。つまり、本学の1期生の入学は昭和60年4月であるから、私は4期生に相当する。私の本学卒業が著しく遅れた理由は、入学目的の相違による。

本学の入学目的には、①学位取得 ②資格取得 ③キャリアアップ ④生涯学習などが挙げられるが、当初の私の入学目的は③キャリアアップであった。

大成建設(株)の技術研究所(建築構造材料研究室)に勤務しており、鋼材・コンクリート・木材などの所謂建材の

物質工学的特性を基礎から勉強しようと考えたからである。勉強した科目は「物質工学」「物質の構造と機能」「物質の科学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」等の15科目である。選科履修生として4年間在学したが、実務に追われて単位は何も取れずに終わってしまった。

平成21年3月、私は建築のエンジニアとしての46年間のサラリーマン生活を終え、在宅の年金生活に入った。69歳になっていたが、無為徒食の無聊の毎日である。平成22年4月、一念発起して本学に再入学して勉強を再開することにした。今回の入学目的は④生涯学習で、死ぬまで勉強を続ける決意である。1年間は選科履修生で放友会にも入会した。放友会の吉田昭二氏(故人)に刺激されて、グランドスラムを目標に全科履修生(人間と文化)の3年次に編入し、今回の二回目の卒業となった次第である。現在は自然と環境コースに在学している。

ここで、私の学習方法を紹介する。私は、毎日鎌倉の自宅から弘明寺の学習センターに通学して、視聴学習室で勉強している。選科履修生の一学期では4科目を選択したが、二学期では6科目に増やした。まだ余裕があったので、全科履修生になってからは毎学期10科目を勉強している。本学では、新学期の始まる前の約2ヶ月は集中放送授業期間で、いわば長期の夏休みと冬休みに相当する。この期間は視聴学習室から放送教材テキストを借り出して、新学期

に登録済みの科目の15回の講義を通して視聴する。その科目の全体を把握するためである。テキストが届いてからは、先ず通信指導と自習問題に目を通して、講師の先生が何を重要視しているかを理解する。次に、ノートを取りながらテキストを精読した後に、その講義のCDを視聴する。この際も、一科目ずつ各個撃破で数科目の平行学習を避ける。単位認定試験までに、各科目最低2回は視聴することになる。

以上の学習方法で、3年間で50科目を学習したが、評価の内訳は①:22,A:11,B:10,C:5,D:1,E:1であった。今年4月に自然と環境コースに編入した時、卒業必要単位数は自コースの17単位だけであった。既に自然と環境コースの専門科目で13単位を取得済みであったからである。4月からの一学期に専門7科目を履修中なので、この7科目の14単位を取れば、9月からの二学期で3単位だけが不足となる。私の場合、一年間で楽に卒業必要単位数を満足できることになる。

本学では、教養学部の各コースの卒業には、2年以上在学することを必要条件としている。3月の学位記授与式で、42名の方々が名誉学生(グランドスラマー)として特別表彰された。大学法制上の制約が厳しいと思うが、「2年以上在学」の卒業条件の撤廃を強く希望する。私は現在74歳で、名誉学生達成は寿命との競争なのである。

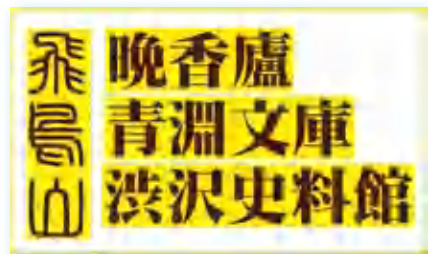
## 「4月ぶらり旅」 飛鳥山散策と3つの博物館見学

弘明寺サロン担当 植地 勢作

第18回弘明寺サロンは趣向を変えて、飛鳥山に出かけました。参加者は8名と少なかったのですが、参加された皆様方には十分堪能していただけたと感じています。

10:30、王子駅中央改札口に集合。日本一短いケーブルカー・アスカルゴ(無料)で飛鳥山公園に上って、まず渋沢史料館を見学。ベテランの桑原学芸員から、ご自身が推進された企画展「渋沢栄一と王子製紙株式会社 ～国家社会の為に この事業を起す～」、さらに国の重要文化財である「青淵文庫」、「晩香廬」について詳細にわたってじっくり解説していただいた。

続いて飛鳥山博物館の企画展「ボンジュール、ジャポン」を見学。今でこそこのあたりは都会のど真ん中になっていますが、明治初期の王子、滝野川、飛鳥山は



外国人から賞賛された景勝の地であったのです。昼食は、私のなじみの中華料理店{豫園}にご案内し、たっぷり談笑し懇親を深めました。ゆっくり休憩した後、飛鳥山に戻り、紙の博物館の企画展「創作折り紙 吉沢章 作品展」を見学。吉沢章さんは故人ですが、日本の折り紙を世界に広めた功労者で、単なる「折り紙」を「芸術」の領域まで高めた方で、ご覧いただいた皆様からは、驚嘆の声をいただきました。その後、王子駅に戻り、16:00頃解散しました。

今回初めて参加していただいた肥後さんから見学記を寄稿いただきましたので、開催記に代えて掲載させていただきます。今回の「4月ぶらり旅」を紙上で味わってください。

## 「飛鳥山へのぶらり旅」に参加して

肥後 照雄

「参加する数だけ新しい知識と出会いが生まれ心が豊かになる」。丁度1年前、放友会に入会して以来、行事に参加する度に強く感じています。先日(4月17日)、神奈川同窓会の行事案内に誘われて「飛鳥山へのぶらり旅」に初めて参加し、さらに意を強くした次第です。



肥後照雄さん(左)  
旅は道づれ 渋沢史料館前で

JR王子駅に下りたのも初めて、「王子製紙工場」「渋沢史料館」「晩香廬・青淵文庫」「紙の博物館」があることさえ知らず、

渋沢栄一の偉業、紙について学ぶ、初めて尽くしの一日。

【渋沢史料館】渋沢栄一は、大蔵省を辞した後、一民間経済人として活動。そのスタートは「第一国立銀行」の総監役(後に頭取)。第一国立銀行を拠点に、株式会社組織による企業の創設・育成に力を入れ、また、「道徳経済合一説」を説き続け、生涯に約500社もの企業設立に係り、また、約600の教育機関・社会公共事業の支援並びに民間外交に尽力しました。何れも驚異的な数字であり、いかに他人のために献身的だったかの証です。

多くの人々に惜しまれながら1931(昭和6)年11月、91歳の生涯を閉じました。当時の平均寿命からすると倍以上の長寿。忙し過ぎて病気になる暇がなかったのでしょうか。

生涯で世界の著名人、ガンジー、蒋介石等と謁見、また、早くから世界に目を向け見聞を広めた先駆者・元祖グローバル人材だったのです。現在、領土問題、企業倫理、ブラック企業、リストラ、追い出し部屋、体罰、いじめ等々内外に多くの問題を日本は抱えています。道徳に根差した企業活動、世界平和、充実した社会・公共事業の効率的推進などに邁進した栄一。草葉の陰で大いに嘆いているのでは。混迷の今こそ生きていて欲しかった人物です。

【紙の博物館】1950年、我が国の洋紙発祥の地である東京・王子に設立された当館は、人類の歩みに大きな役割を果たしてきた紙について、古今東西より幅広く

資料を収集、保存、展示し、様々教育普及活動を行っています。折り紙の世界普及にも尽力。

多くの紙関連会社の支援によって運営されている、世界有

数の紙専門の博物館です。15世紀から16世紀に繁栄したインカ帝国(南米ペルー、ボリビアなど)は、巨大な石の建築物、カミソリの刃も通さないほどの精巧に重ねられた石の加工技術など遺しました。しかし、実は紙も文字も持っておらず記録が全くないのです。日本に生まれて良かったと感じた旅でした。また、あらためて紙を大切に

【出会い】今回の旅の幹事は、顔が広く各博物館のスタッフと旧知の間柄。足が棒のようになったほど長く、懇切丁寧な解説が心に染み入りました。そして、何より嬉しかったのは、ランチ時の中華料理店ママとも古い知り合いで、紹興酒やデザートの違いがあったことです。旅の道連れは計8名、初めてお会いする方は2名。杯を重ねるごとに盛り上がり、帰る頃には前から深い親交があったかのような仲に。「よき人との出会いは幸せを呼ぶ」。言葉通りの幸せな、心身とも満たされた一日でした。

## Raise Your Hand

### ～世界の女の子のために手を上げよう～

赤松 孝子

3月10日「社会貢献活動」プラン・ジャパンの講演会がありました。講師の安野麻衣さんの「パキスタン現地報告」のあと「Because I am a Girl」というキャンペーンをおこないました。すべての女の子に教育を、それが世界を変える力になる”世界の女の子の教育を支援するアクション。世界で400万人の参加を目指しています。

世界の女の子は7,500万人が学校に通えていない。3秒に1人、毎年1,000万人が強制的に結婚、7人に1人が15歳以下で結婚。暴力、人身売買、HIVなどあらゆる危険から自分を守るように、という趣旨で私達神奈川同窓会も手を挙げて賛同参加の意思表示をしました。



渋沢栄一の80歳の傘壽と子爵昇格を祝う蝙蝠と壽は青淵文庫の絨毯文様として刺繍されている

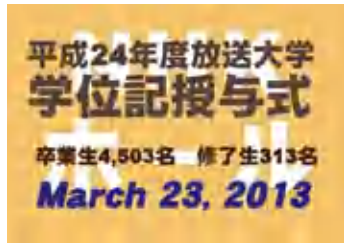


Because I am a Girlの横断幕を掲げて

平成24年度学位記授与式

事務局だより

平成24年度学位記授与式がNHKホールで挙行されました。今年度の卒業生・修了生は4816名、11時から始まった式典には神奈川学習センターの学生も多く参列し、「我が生涯最良の日」であったと思います。式典終了後は会場を赤坂のホテルニューオータニの芙蓉の間に移し、祝賀パーティーが行われました。円卓を囲み今日の喜びを語る学生の輪の中に岡部学長や先生方も加わる場面が此処彼方に繰り広げられていました。卒業生・修了生のステージインタビューや八王子車人形一座の二人三番叟や団子売りの舞がこの晴れの日に華を添えました。



(岡本興和 記)

平成25年4月1日現在の会員数は596名となりました。また平成24年10月22日(『波濤』44号掲載)以降平成25年度春季入会者は下記の通りです。心より歓迎申し上げます。敬称を略します。

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 熊坂 聡  | 澤村 雅嗣 | 清水 征夫 | 高橋 和子 |
| 柿崎よし子 | 久保田弘子 | 中川 光一 | 角崎 清二 |
| 勝山 悌治 | 古賀 幹章 | 安達 洋子 | 井上 陽子 |
| 金子 英司 | 濱谷 和久 | 日向 寺遼 | 片山 幸正 |
| 柴 由 恵 | 山本 道子 | 村田カズ子 | 田辺 桂子 |
| 山村 恵子 | 小澤 昭子 | 友野裕美子 | 石丸 迪子 |
| 井上 洋子 | 中村真理子 | 大森百合子 | 片桐 育子 |
| 西川 浩平 | 藤原嘉奈子 | 服部 高重 | 松下 正博 |
| 今井 賢司 | 石田 清一 | 久永 善輝 | 馬場 信一 |
| 田中エミ子 | 山下 和良 | 池 永康子 |       |

卒業生・修了生謝辞

神奈川学習センター「名誉学生」のお知らせ  
 武石和郎 大地 實 黒崎 浩 波多野康男



年会費納入のお願い

会費の納入は5月の総会前後に納入頂く方が大多数です。2年目も忘れると、「自然退会扱い」になります。例年総会案内と一緒に年会費「払込取扱票」を同封しておりますので一学期単位認定試験前迄に納入して頂きたくご協力の程お願いいたします。口座番号・年会費金額等は下記のとおりです。

口座名 神奈川同窓会  
 口座記号番号 00250-16183 (右詰め)  
 年会費 1,000円 (送料はご負担願います。)  
 お問い合わせ 金田保男 TEL.045-333-4426  
 yasuo-kaneta-626531@hotmail.co.jp

波濤ネットへの入会のご案内

神奈川同窓会では通信連絡網のhato-netを運営しています。この連絡網は同窓会のホームページと一体となり連携深めています。メールアドレスをお持ちの方はご一報で即登録します。Read Only Member (ROM) 会員大歓迎!

登録担当：岡本 興和  
 okow1439@hotmail.com

行事だより

9月7日(土)	第27回フェスタ・ヨコハマ初日
9月8日(日)	フェスタ・ヨコハマ お茶席・福引大会を出店
8/21~11/20	弘明寺サロン 毎月第3水曜日 14時から *の日程は未定です。追って掲示します。 *茶道同好会 *映画研究会 *太極拳の日
10月5日(土)	卒業・修了祝賀会
11月23日(土)	秋の行事 詳細は波濤46号(2013年11月発行)
12月14日(土)	忘年会(弘明寺サロン終了後)
2014/3/2(日)	映画鑑賞会